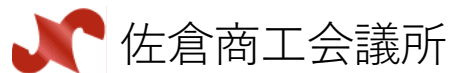


# 佐倉市の早期景気観測調査

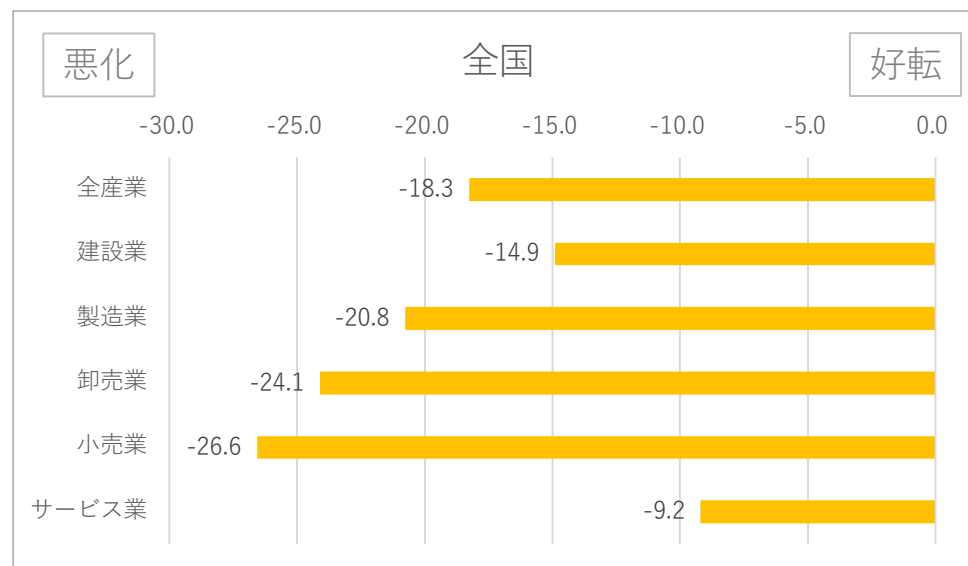
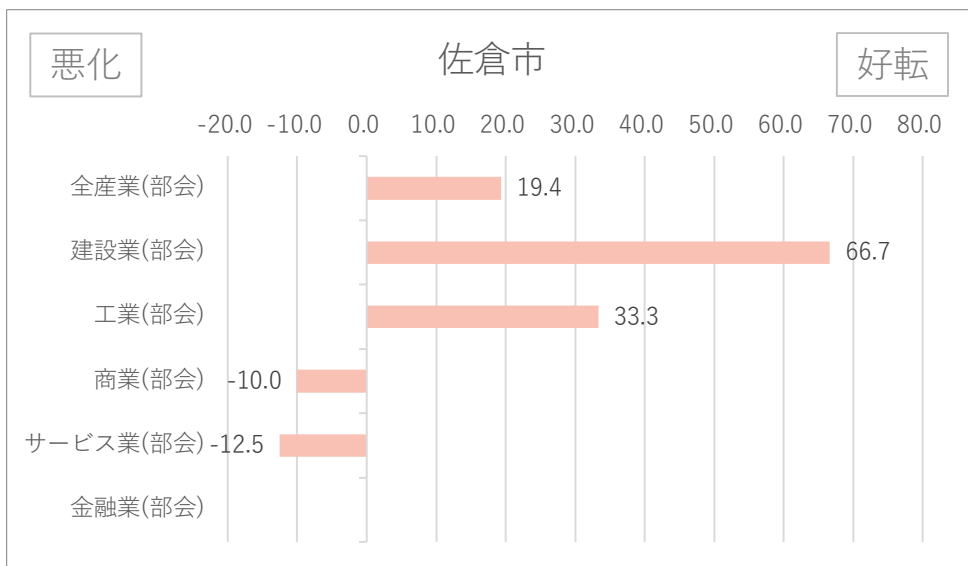
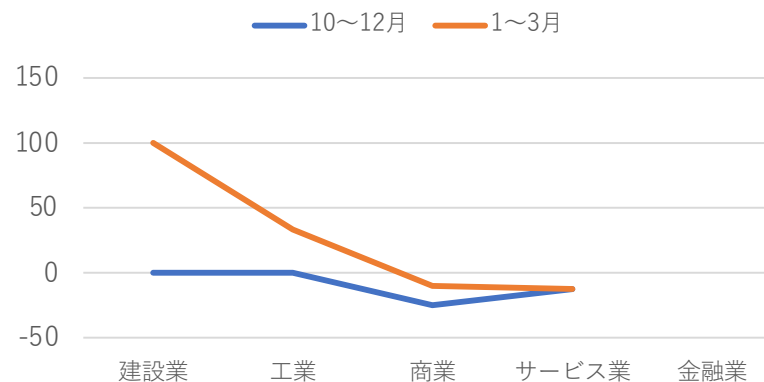
令和7年度第3回(令和7年10~12月)の結果報告



佐倉市の業況DIは、工業(部会)で好転が続き、商業(部会)も改善が見られた。一方、建設業(部会)は前回調査で悪化から一転して持ち直しの動きが見られる。サービス業(部会)は弱含みが続く。全国調査では全産業で悪化が続き、厳しい状況が継続している。

3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)と工業(部会)で改善の傾向が示され、商業(部会)もやや回復が見込まれる。一方、サービス業(部会)は引き続き慎重姿勢が続き、全国調査の悪化基調を踏まえると不透明感はある。

■3ヶ月後の先行き見通し

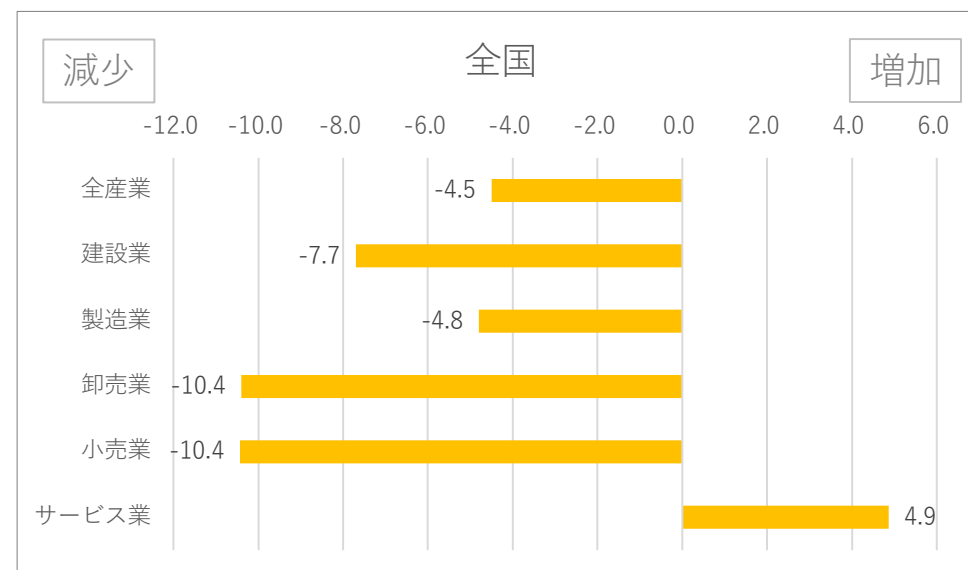
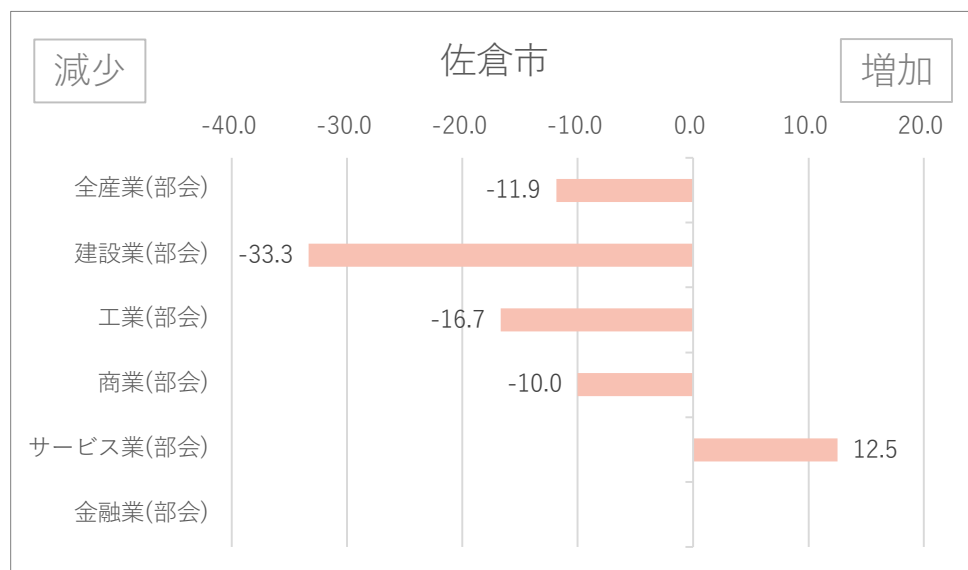
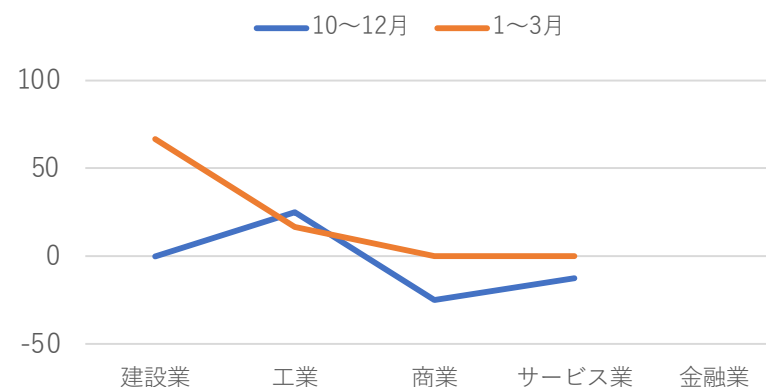


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の売上高DIは、建設業(部会)、工業(部会)、商業(部会)で減少が続き、全産業(部会)でマイナスとなった。サービス業(部会)のみ増加を示したが、全体としては弱含みの推移である。全国調査では小売業・卸売業は依然マイナスだが、前回調査からやや回復した。

3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)、商業(部会)で増加傾向が示され、サービス業(部会)も改善の見通しとなった。全体としては横ばい圏での推移が続く見込みである。

■3ヶ月後の先行き見通し

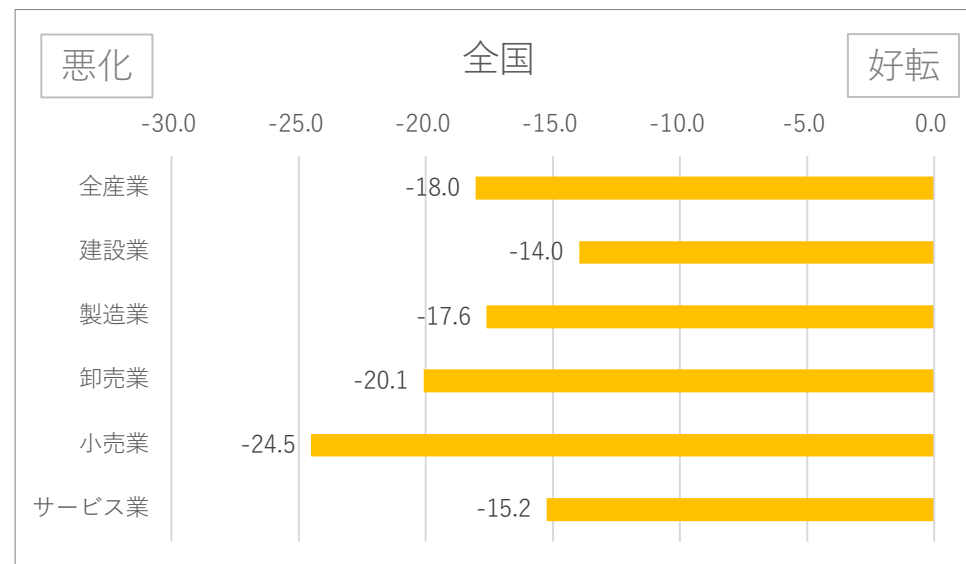
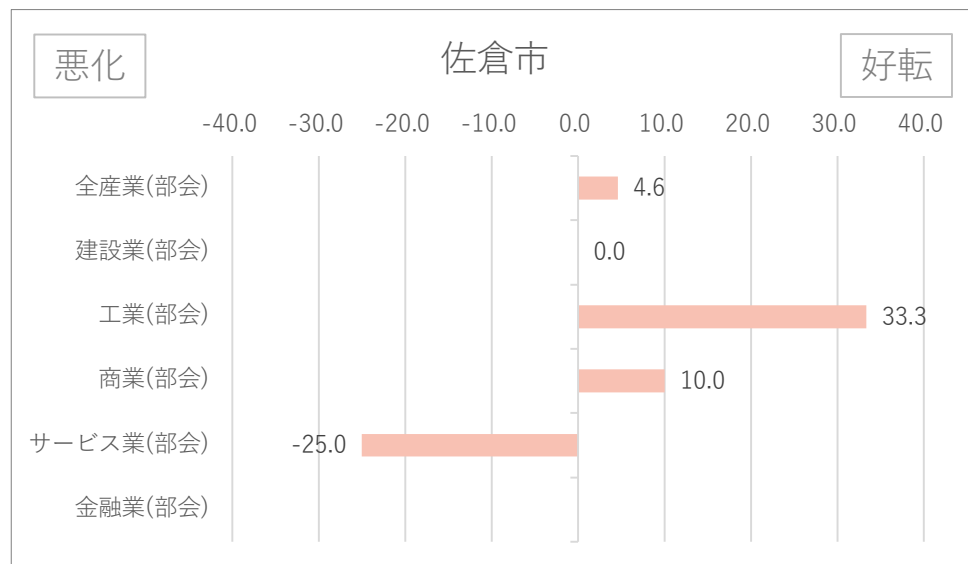
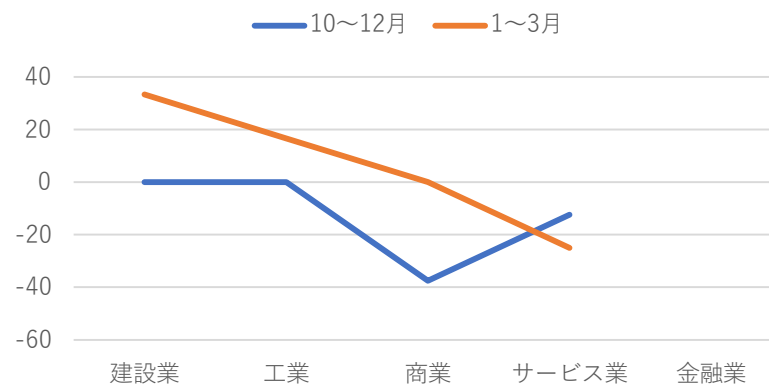


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の採算DIは、工業(部会)と商業(部会)で改善が見られたものの、サービス業(部会)の悪化が続き、全体として慎重な状況が続いた。全国調査では原材料・燃料・労務費の上昇を背景に悪化が継続しており、佐倉市でも同様にコスト負担が重い状況が続いている。

3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)、工業(部会)、商業(部会)で好転が見込まれる一方、サービス業(部会)は悪化が続く見通しである。全体としては小幅な改善が期待されるが、全国調査の悪化基調を踏まえると慎重な姿勢が続く。

■3ヶ月後の先行き見通し

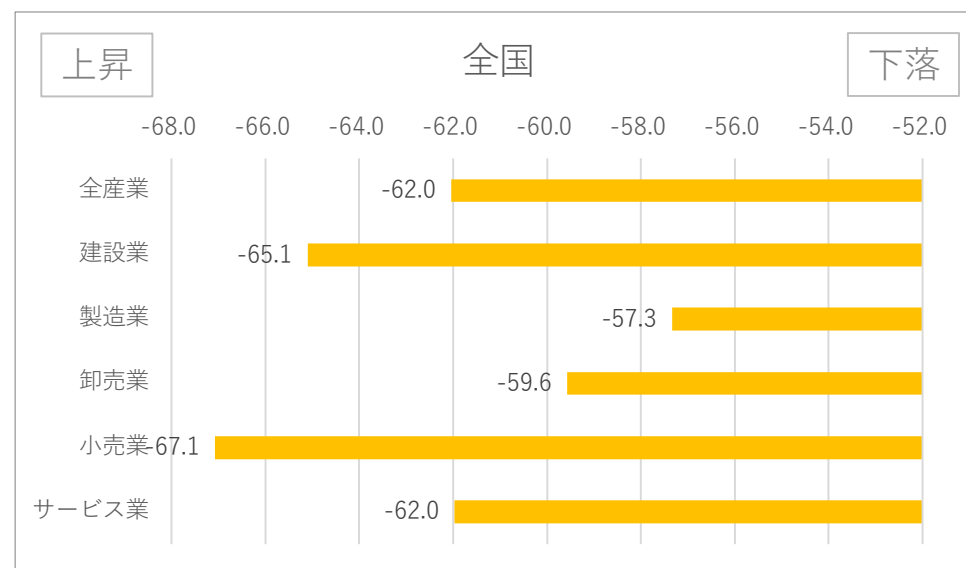
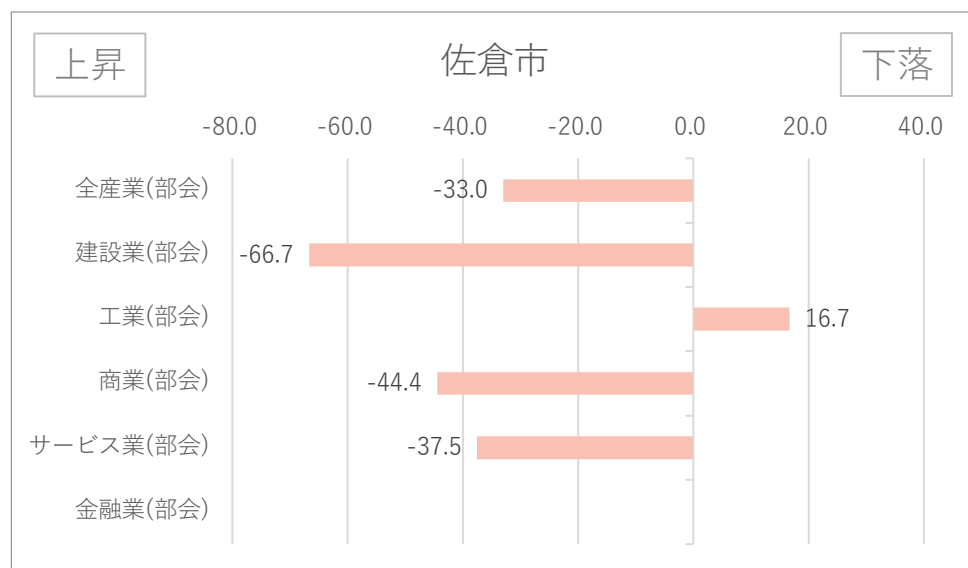
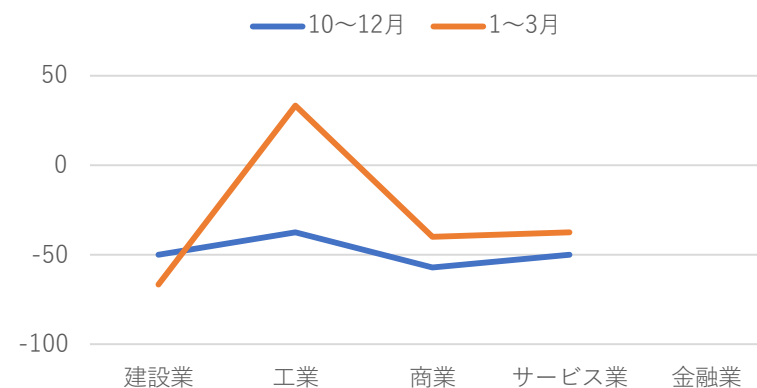


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の仕入れ単価DIは、建設業(部会)の大幅上昇が続き、商業(部会)、サービス業(部会)でも上昇傾向が示された。工業(部会)のみ下落となったが、全体としては高止まりが続く。全国調査でも上昇基調が継続し、資材価格や労務単価の上昇が企業負担を押し上げている。

3ヶ月後の先行き見通しは、工業(部会)で下落が見込まれる一方、建設業(部会)はさらなる上昇が見込まれている。全国調査でも上昇の傾向が続いているが、資材価格の高止まりから徐々に調整局面へ移行することが期待される。

■3ヶ月後の先行き見通し

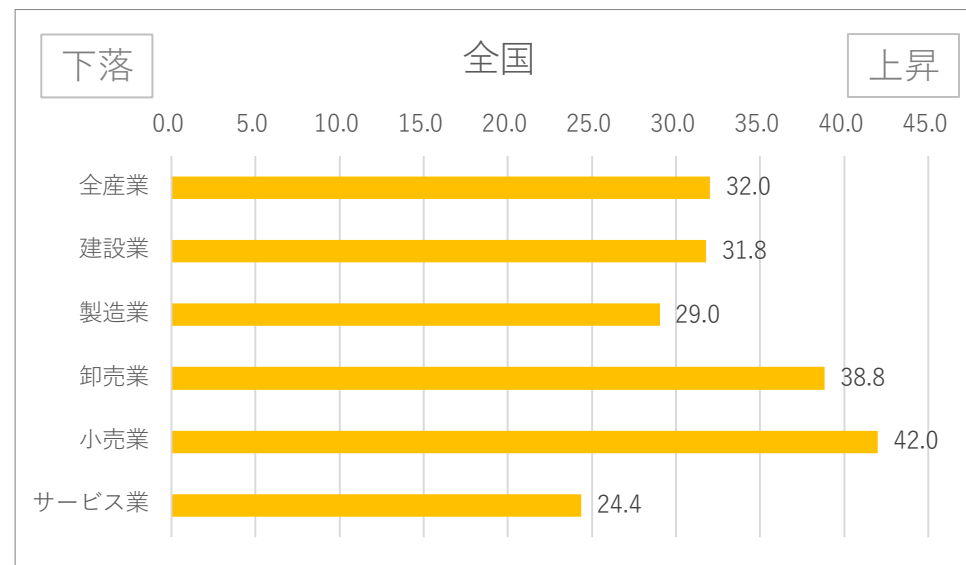
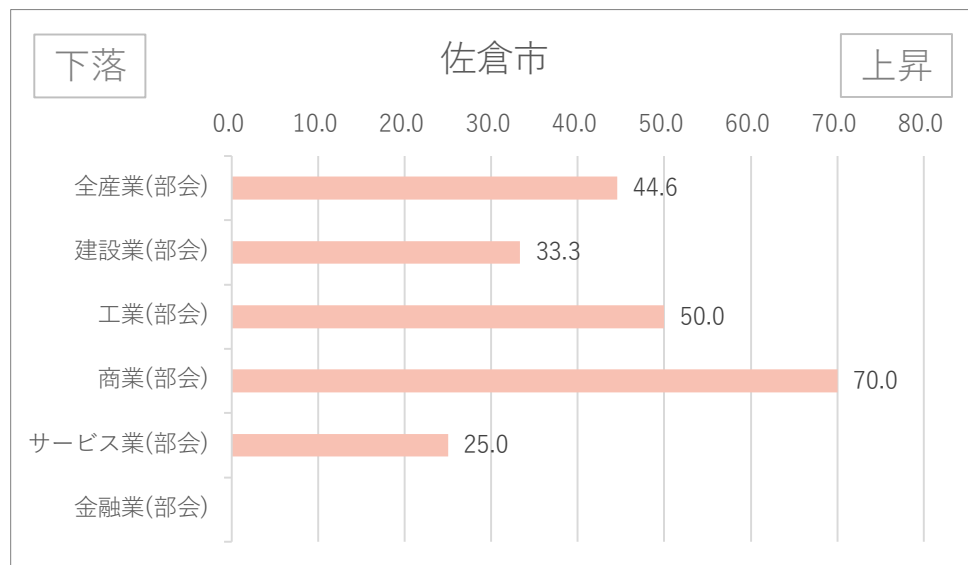
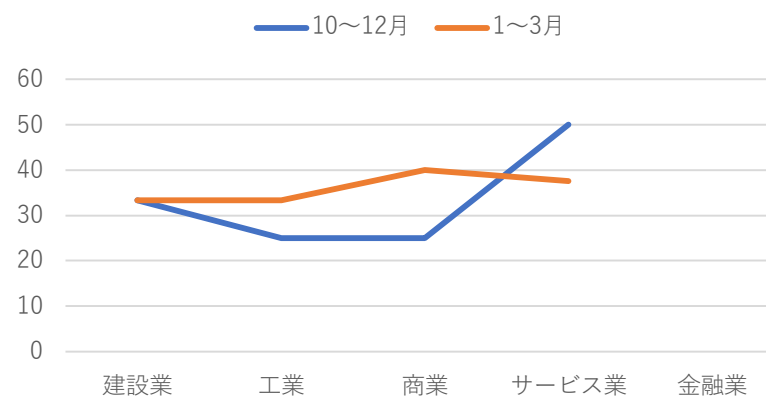


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の販売価格DIは、全産業(部会)で上昇が続き、商業(部会)、工業(部会)で特に高い上昇幅が示された。仕入れ単価の上昇を受けた価格転嫁が継続しており、全国調査でも同様の傾向が続く。消費マインドとの乖離が懸念され、採算確保の難しさが増している。

3ヶ月後の先行き見通しは、工業(部会)と商業(部会)で上昇が見込まれている。また、建設業(部会)は横ばい、サービス業(部会)は下落が示された。全国調査でも上昇基調が続く中、業種間で価格転嫁の進捗に差が生じている。

■3ヶ月後の先行き見通し

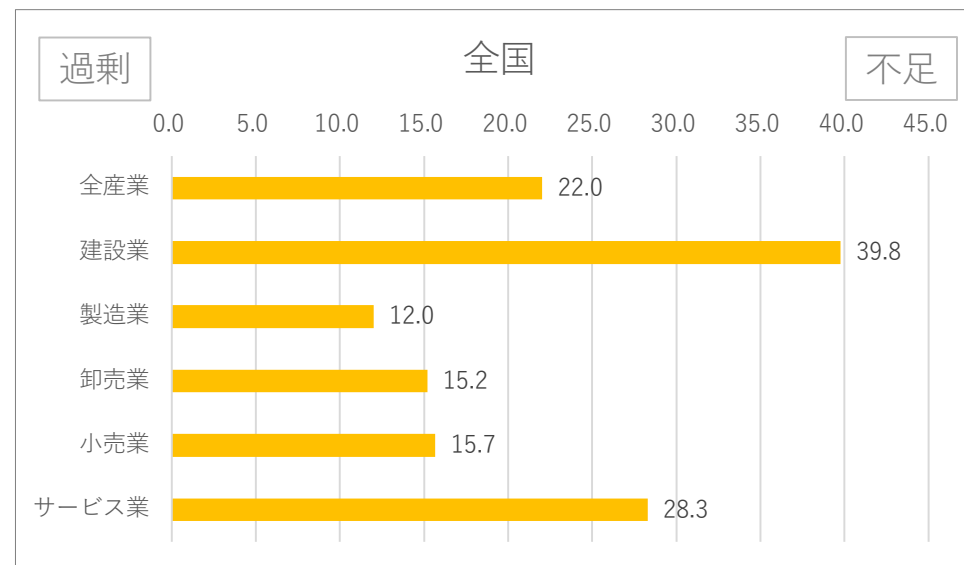
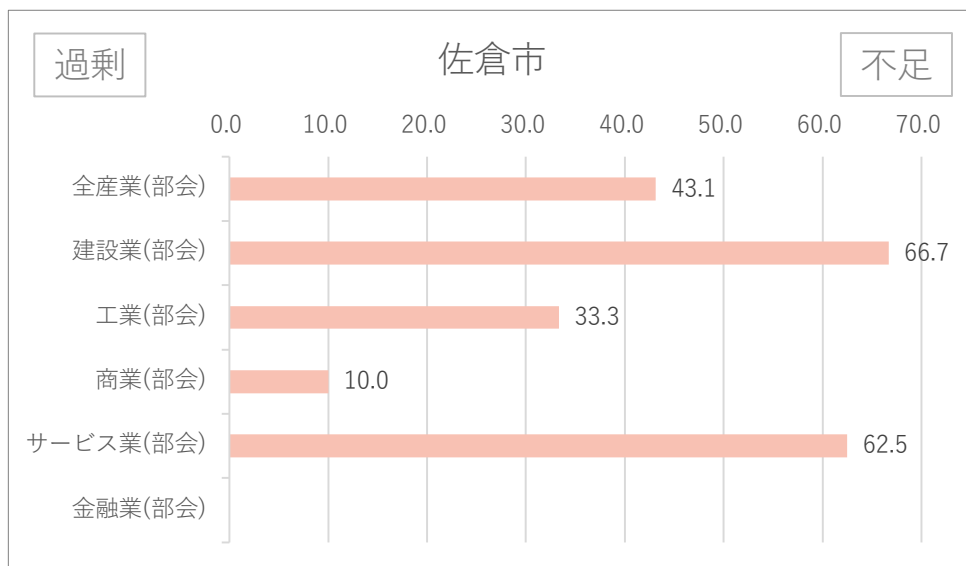
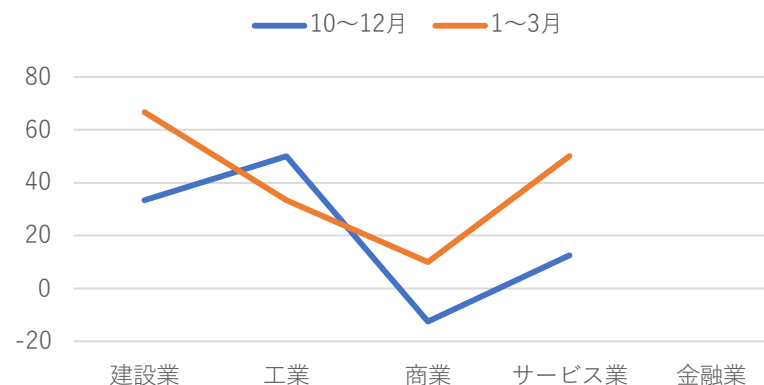


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の従業員DIの状況は、建設業(部会)、サービス業(部会)を中心に不足感が一段と強まり、全産業(部会)で高い水準となった。全国調査でも建設業の不足が顕著で、賃上げ圧力や採用難が続く。コメントの通り、佐倉市でも人材確保が経営課題として深刻化している。

3ヶ月後の先行き見通しは、工業(部会)のみ不足感が緩和する見通しで、建設業(部会)、商業(部会)、サービス業(部会)は引き続き不足が続く。全国調査の全体的な不足感を背景に、今後の改善には時間を要するものと思われる。

■3ヶ月後の先行き見通し

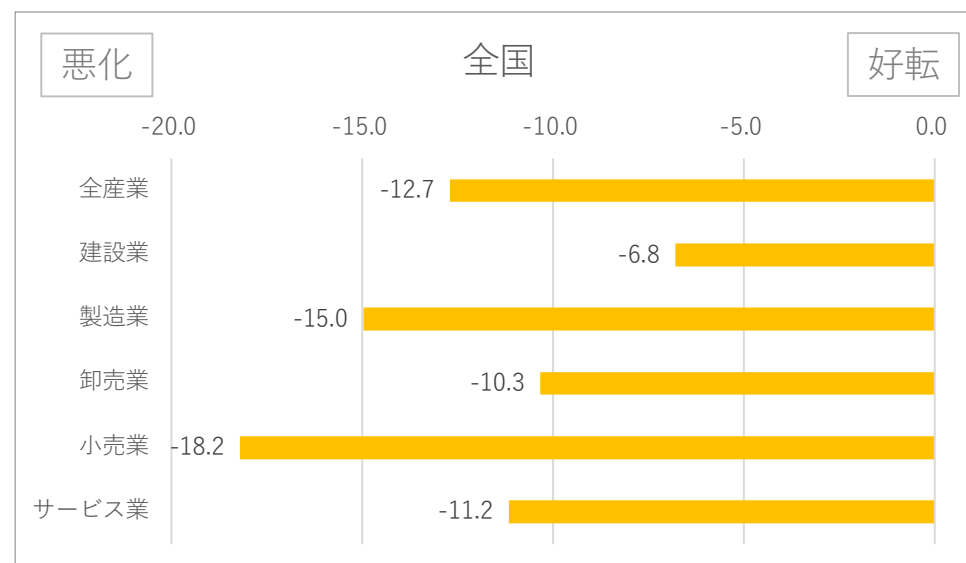
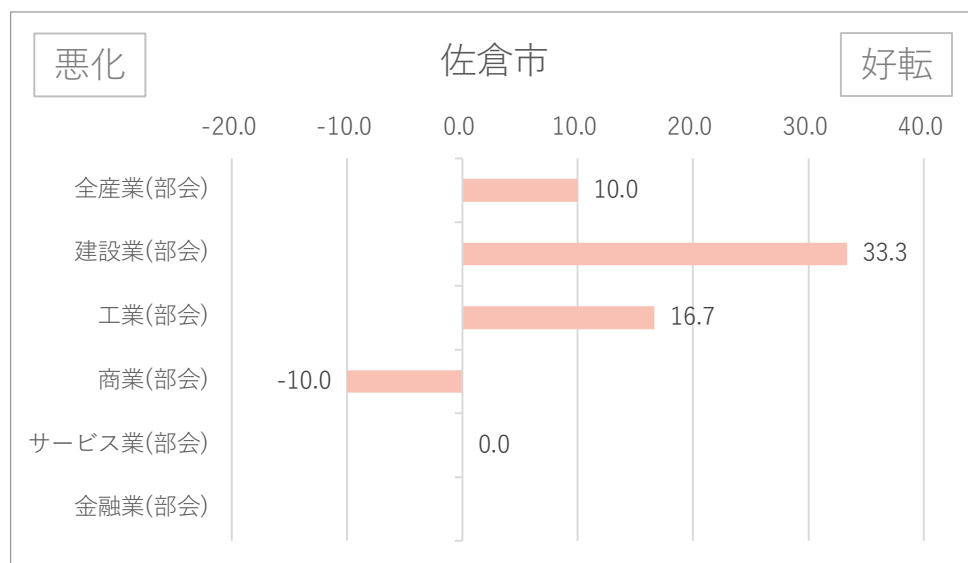
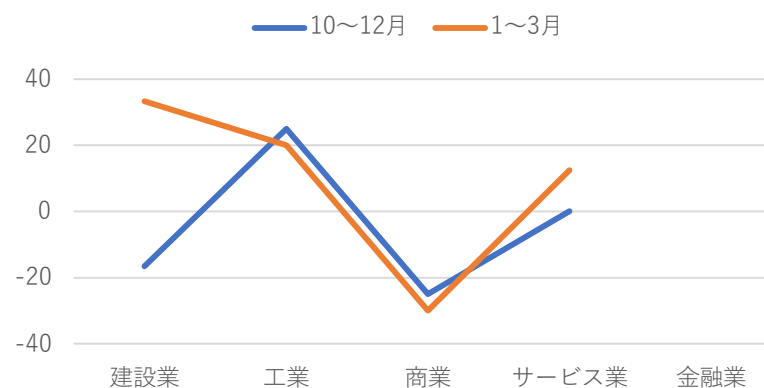


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の資金繰りDIは、建設業(部会)、工業(部会)で改善が見られた一方、商業(部会)では悪化が続いた。全産業(部会)としては小幅な改善となったが、全国調査では悪化が継続しており、金利環境の変化やコスト増が企業の資金繰りを圧迫している。

3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)とサービス業(部会)でやや好転が示されているが、工業(部会)と商業(部会)はやや悪化傾向が見通されている。全国調査の悪化傾向を踏まえると、引き続き慎重な資金管理が求められる。

■3ヶ月後の先行き見通し



※日本商工会議所LOBO調査より

部会	コメント内容
建設業部会	
工業部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設備工事業であるため、設備投資が活発な時期には経営環境は良好となる一方、人件費の上昇など不安定要因も多い。今後は人口減少に伴い需要の減少が見込まれるが、同時に技術者の引退も進むと考えられ、需給動向の先行きは不透明である。過去には、ウクライナ情勢に起因する電気料金の高騰や、新型コロナウイルス感染症の影響による資材供給不足により、工事の休止を余儀なくされるなど、厳しい経営環境に直面した時期もあった。</li> <li>・ ドル円相場</li> </ul>
商業部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 衆議院選挙結果</li> <li>・ 物価の上昇</li> </ul>
サービス業部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円安や輸入資材等単価の高騰、人件費の高騰で顧客の経営を圧迫している。</li> <li>・ 当社はトラック事業でもあるため、免許制度が頻繁に変更されると対応に困ってしまう。</li> <li>・ 外国の方が増えておること、高齢化に伴い相続・承継等により、事業としての増加は見込まれるが、法令などの制限もあり、必ずしもプラスとなるばかりではない。将来を見越した動きを行政等含めて行うべきである。</li> </ul>
金融業部会	

部会	コメント内容
建設業部会	
工業部会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人件費、外注費、資材価格の上昇により建築費が高騰し、計画の見直し、延期、さらには中止に至る事例が発生している。</li><li>・ 中国問題</li><li>・ 将来の人手不足に備え設備投資を進める予定</li></ul>
商業部会	
サービス業部会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特定技能1号の増加による永住権取得は、将来的に安い労働者が増えることで、日本人の給与が伸び悩みます。長期の就労や永住権の付与には反対です。</li><li>・ いまだにインボイス制度による利点がわからない。</li><li>・ 人件費の増加は必要であり良いことではあるのだが、報酬を上げづらい認識。</li></ul>
金融業部会	

## 早期景気観測とは

地域の中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」（採用、設備投資、賃金動向等）を調査し、その結果を集計・公表するもの。QUICK SURVEY SYSTEM OF **LOCAL BUSINESS OUTLOOK** からLOBO調査などと呼ばれる。

## 調査の目的

企業を取り巻く経営環境や直面する課題等の現状を示すデータとして、経済対策に関する政策提言・要望活動などに活用すること。

## 調査の方法

調査依頼をメールにて一斉配信、Googleフォームのアンケートに対する回答入力による回収。

景況判断指数（DI値）とは、業況・売上・採算などの各項目についての判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。【景況判断指数 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)】

## 調査回答構成比

	商業 部会	工業 部会	建設 業部会	サービス業 部会	金融業 部会
部会員数 構成比	34.02%	7.06%	22.93%	32.80%	3.18%
回答数 構成比	37.04%	22.22%	11.11%	29.63%	0.00%

## 調査対象期間・回収期間

調査対象期間：令和7年10月～12月（3ヶ月間）

回収期間：令和8年1月1日～1月31日（Googleフォーム）